

三小だより 10月号

スポーツの秋

校長 大鳥 清裕

9月も後半に入ると朝夕めっきり涼しい日が増えてきました。夜になるとどこからともなく虫の声が聞こえてきたりもします。日中は日差しが強い日もあり、まだまだ暑さを感じることもあります。季節は着実に進んでいるようです。

昔からスポーツの秋とよく言われます。今年は日本で初のラグビーワールドカップが開催され、テレビでも盛んに紹介されています。他にバレーボールも日本でワールドカップが開催されていますし、プロ野球でもセ・パ両リーグの優勝が決まるなど、スポーツの話題には事欠かない昨今です。

私は以前、中学校で勤務をしていたころ、卓球部の顧問をしていたことがありました。ある時、大阪府の大会に出場し、何回か勝ち上がり、あと一つ勝てばベスト8に入ることができるというところまで進みました。その時は団体戦の大会で、6人で1チームを作り、シングル4試合、ダブルス1試合の5試合を行い、先に3勝したチームが勝ち、というやり方でした。5試合のうち4試合終わった時点で2勝2敗。つまり、最後の1試合に勝敗がかかるという状況になりました。少し想像していただければわかりますが、その最後の試合に出る選手にとってはとてつもないプレッシャーがかかる場面です。今でも覚えています。コートに向かう彼の表情は硬くこわばり、唇の色がないような様子でした。おそらく脚も震えていたのではないのでしょうか。コートに入れば1対1の勝負、孤独な戦いです。そんな時助けてくれるのがチームメートの応援です。日ごろからしんどい練習を一緒になって乗り越えてきた仲間、その仲間たちの応援が彼を後押しし、力を与えてくれるのです。私はスポーツのすばらしさの一つはここにあると思います。一人では負けそうになるところをチームの力で乗り越えていく。少しキザな言い方かもしれませんが、そういう仲間との絆を感じることができるのがスポーツのよさだだと思います。

さて、学校では先週から運動会の練習が本格的に始まりました。部活動のような競技スポーツとは違いますが、運動会もクラスや学年の絆が問われるところです。団体競技や団体演技は特にそうです。集団が一つにまとまっていないとよい結果は伴わないでしょう。逆に言えば、運動会の取り組みを通して、学級・学年の絆を深め、まとまりを作っていけばよいのです。同じことの繰り返しの練習で嫌になることもあるかと思いますが、そこをなにくそと頑張っ、仲間と力を合わせて素晴らしいものを作り上げてほしいと思います。当日、子どもたちは取り組みの成果を見せてくれると思います。保護者の皆様もぜひ応援にお越しください。よろしくお願いいたします。

